

**第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会（第24期・第5回）及び
科学者委員会学術と教育分科会（第24期・第5回）合同会合
議 事 要 旨**

日時：平成31年2月3日（日）11時00分～12時00分

場所：日本学術会議 5-A（1）会議室

出席者：木部暢子、古城佳子、佐藤岩夫、橋本伸也、本田由紀、町村敬志、松下佳代、
溝端佐登史、若尾政希、菊池章、平井みどり、小山田耕二、小澤隆一、中山迅、
広田照幸、吉田文

欠席者：亀田達也、亀本洋、戸田山和久、西尾チヅル、藤原聖子、三成美保、宮崎恒二、
高山佳奈子、前川宏一、狩野光伸、西嶋一欽、桃木至朗、神里達博

【前回議事要旨の確認】

いずれの分科会についても、前回議事要旨は確定済であることが確認された。

【シンポジウムの運営について】

橋本委員長より、シンポジウムの段取りや役割分担について説明がなされた。

【大学「再編」問題をめぐる学術会議の今後の取り組みについて】（配布資料②～⑤）

橋本委員長より、配布資料②に基づいてこの間の政策的動向とそれを受けた大学関係団体の動向について説明がなされたのち、学術会議としてどう取り組むかについて提起がなされた。その後の意見交換の要旨は以下のとおり。

- 今後大学のあり方を考えるシンポジウム等を継続していくにあたって、今日のシンポジウムのテーマを掘り下げていくのか、それとも異なるテーマに広げていくのか。
→ 様々なテーマで行うべき、学術会議として提言なりを発出すべきなど、様々な意見があり、まだ確定的ではない。
- 国公立が協力してどういった成果を出していくかという、各団体に共通のイメージや基盤はあるのか。
→ これから作っていくしかない。利害対立は実際に存在するが、その状況を共有しつつ協力していかなければいけないという点では一致している。
- 経団連が国公立の関係者を集めて、学生の就職活動の問題について考える会議が行われ始めてる。学術会議としても、繋がり方を模索していかなければならない。
- こういった状況は、これから大学生になる若者にどう伝わっているのか、あるいは伝わっていないのか。
→ 今日のシンポジウムではリクルートの人も来るので、注目である。

- 大学関係団体間の連携だけではなく、外部の人達に学術的な観点から大学を理解してもらう機会を設ける必要もある。
- 特にどの政策動向に対抗していくのか。
- 今後学術フォーラム等を継続していくとして、地域経済に長けている地域の信用金庫の人を呼ぶのもよい。

【今後の進め方について】

今後の進め方について、橋本委員長より、以下の趣旨の説明がなされた。

- それぞれの分科会個別の課題と並行して、大学再編問題について両分科会で審議していかなくてはならない。
- 予算の問題があるなかで、総会中の開催・メールによる情報共有といったことを考えている。
- 大学再編問題について、両分科会で引き続き審議することとし、当面は新規に委員会を設置する等は考えていない。
- 政策動向のテンポが非常に速いということもあり、次回の会議について、各団体の方からのヒアリングの機会を春のいずれかの段階で設けたい。

それに対し、以下の意見があった。

- 分科会における第二部・第三部の構成員を増やすことも検討してほしい。
- 大学再編問題を巡る状況も、学問分野別で大きく異なる。医学分野では、すでに規模の縮小も含めて検討が進んでおり、地域ごとの拠点化・集約化は必然的になっている。そのような分野ごとの状況を勘案する必要がある。

【配布資料】

- ①前回議事要旨
- ②合同分科会参考資料
- ③平成 30 年度地方大学・地域産業創生交付金の交付対象事業の決定について
- ④平成 30 年度地方大学・地域産業創生交付金の評価について（総括的所見）
- ⑤2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン・ポンチ絵
- ⑥シンポジウムフライヤー

以上